

## 議 会 改 革 推 進 会 議 ( 1 2 / 2 1 概 要 )

日 時	平成30年 12月21日 (金) 午後4時00分～午後5時20分
場 所	飯田市役所 第1委員会室
出席者	後藤荘一委員長、木下徳康副委員長、清水優一郎委員、小林真一委員、 福澤克憲委員、山崎昌伸委員、福沢 清委員、吉川秋利委員
事務局	吉川事務局長、北原事務局次長、筒井庶務係長
説明者	田中総務文書課長、植松情報システム係長

### 【会議の要点】

#### ○協議事項等

#### 1 反問権の扱い（答申結果）について

##### □前回の会議以降の経緯について委員長から報告

- ・「飯田市議会における反問権に関する取り扱いの申合せ」  
平成30年12月18日 議会運営委員会 決定
- ①反問権の実施要綱を定め、平成31年2月19日から施行する。
- ②反問権の実施要綱第5条に規定されている運用方針を定め、平成31年2月19日から施行する。
- ・平成30年第4回定例会 議会議案第4号 「飯田市議会会議規則の一部を改正する規則の制定」を可決。平成31年2月19日から施行。

#### 2 市議会のICT活用（タブレット端末）の検討について

##### □執行機関における庁内会議でのタブレット端末の導入について

説明者：総務文書課 田中 課長、植松 情報システム係長

##### ・タブレット端末導入の概要：

導入年度	平成28年度
端末の台数	30台
導入時の費用	約300万円（タブレット端末 1台@96,500円×30台、他にサーバー、無線LAN機器、サーバーソフトウェア等）
タブレットを活用している会議	部長会、行財政改革推進本部会、業者選定委員会、例規審査委員会 ※部長会議、業者選定委員会は定例で毎月開催（平均で月に3回程度）
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙が不要（ペーパーレス）</li> <li>・印刷に係る手間が省ける（準備の業務が軽減される）</li> <li>・会議の直前までデータ修正が可能</li> <li>・資料の表示サイズが調整可能（文字や画像を拡大できる）</li> <li>・取扱注意（その場限り）の文書の回収が不要</li> <li>・情報共有は電子データを庁内の共有フォルダに保存することで複数の職員が閲覧可能（情報によっては、非公開の扱いもあり）</li> <li>・PDFを見るだけの仕組みなので導入費用以外のコストは不要</li> </ul>

デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットでPDFファイルを見るだけなので、直接メモを書いたりアンダーラインを引いたりが出来ない</li> <li>※システムを導入すれば可能であるが、現時点では見るだけ</li> <li>・複数の資料を見比べるための操作が煩わしい</li> <li>・ページ数が多い資料のページ送り操作が煩わしい</li> <li>・事前に資料を配布することができない（今の運用では）</li> <li>・タブレット端末は共同利用のため、会議時間のみしか利用できない</li> </ul>
-------	---

- ・その他：
  - 平成29年度の議会議案印刷費 … 243万円（全てペーパーレス化にすると削減可）

## □ ICT活用（タブレット端末）の検討についての主な意見

（吉川委員）

- ・議会だけでやるのではなく、行政と一緒にやって同じ情報を共有していくことが必要だと思う。

（山崎委員）

- ・現在、執行機関側が実施しているのは、「ペーパーレス」であり、それだけではもったいない。安城市議会の場合も、どういう目的でやるのかということも4つぐらい整理されており、そういうことの議論が非常に大事になると思う。
- ・どういう目的でこれをやるかということによって、**どういう機能が必要になるのか、ということがやれたらいいのか、やらなくてもいいのか**ということがだんだん整理をされていく話になると思います。ぜひ、そういう議論の進め方をしていただきたい。
- ・そういう意味でいくと、行政と一緒にやってやる部分と、議会としてはこれが必要だということは、当然分かれてくる話もあると思うので、それらも含めて検討していく必要があると思う。

（清水委員）

- ・目的をどうするかということが一番重要かと思う。その目的をつくる時に、議会と行政できることなら一緒にやっていくということがいいだろうし、議会だけでやるということも場合によったら、それは進めていったほうがいいと思う。
- ・その中で、議員だけが有効で、かえってそれを導入したことによって議会事務局の皆さんの労力が掛かるようになっちゃったら本末転倒になってしまうので、その辺、これに関わる人たち全員が何というか有効に使えるような、そんな目的にしていけたらと考えている。

（後藤委員長）

- ・今後、もうちょっと細かく具体的に情報を集めたり、いろんな**論点整理**や委員の**意識調査**みたいなものもしていく必要もあると思う。今後の進め方は正副委員長にお任せいただきながら、だんだんステップを追って議論を進めていく必要があると考えている。